



## ● 道徳教育 ●

# 特色ある学校づくり 龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志

高知県 高知市立城西中学校（校長 宮田 龍）\*

### 【研究のポイント】

- ① 「特色ある学校づくり」を目指す。
- ② 道徳科の研究と教育実践を行う。
- ③ 道徳科における地域教材の作成と研究実践を行う。

### 1. はじめに

校名が示す通り、高知城の西に位置した学校であり、ほぼ高知市の中心地でもある。

明治維新への貢献者の人である土佐の先人「坂本龍馬」の生誕地も校区にある。



本校では、11月15日の龍馬誕生祭に出席して、「城西龍馬新聞」の説明と配布を行っている。

### 2. 特色ある学校づくり

- ・ 龍馬の意志を受け継ぎ、特色ある学校づくりを研究することが目的である。
- ・ 道徳科の研究と教育実践を推進する。

### 【本校の教育の校訓】

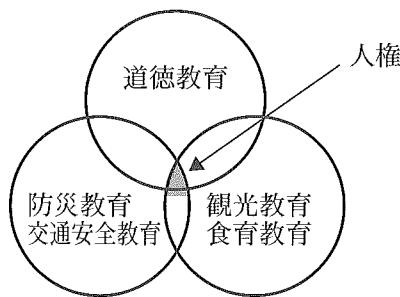
「ひとりはみんなのために みんなはひとりのために」を伝統として、教職員・生徒とも長い間引き継いできている。

平成26（2014）年度に、現在の生徒へのメッセージとして、先人の龍馬にスポットをあて、「龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志」と目標を設定した。

### 【目標とする学校の姿・地域の姿】

平成28（2016）年度の実践：「龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志」を、時代のニーズに合わせ学習を深めることが重要。

学校教育の分野において、防災教育、道徳教育、交通安全教育、観光教育、食育教育を、「龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志」として具体的に実践を行うことを計画して、実践した。



郷土に「城西中学校」「高知市」に自信と誇りを持つ!  
郷土学習・まちづくり学習へと発展

## ① 防災教育へのアプローチ

気仙沼市立階上中学校との被災地学習の交流（昨年）が大きな転機となり、本年度は、10月2日に城西中学校周辺の越前町・大膳町等の町内会と協力して、避難所開設防災訓練を開催した。



その体験がもとになり、生徒会役員が計画・主催して全校生徒による避難訓練を実施した。生徒の中に「自分の命は自分で守る」という意識が育ってきた。

## ② 観光教育へのアプローチ

平成28（2016）年12月20日に、本校の実践として、A R (Augment Reality : 拡張現実) を活用した地域紹介を発表した。

その後、玉川大学の寺本潔教授から、「道徳と観光教育との関連」についての講演をしていただいた。



また、「城西校区のすばらしさ再発見」と題して、城西中写真展（北舎2階）を、平成29（2017）年1月10日～2月10日までの1か月間、開催した。

## ③ 食育教育へのアプローチ

「龍馬が食べたであろう朝食」を再現して朝食会を開催した。

レシピ：米飯、さばの塩焼き、

### なすとみようがの甘酢漬け、味噌汁

なすとみようがの甘酢漬け、味噌汁

● 食事は残さず、感謝しながらいただけよ  
源、山、里の生き物の力をもつて人間のかか  
えていたり、おもむろに食事をする人には、か  
くでいい食事などは、生産・収穫してくれる  
人、おいしい料理を作ってくれる人、すべてに  
感謝して、美味しい料理をいただき。

● 朝、昼、晚、三食しっかり食べろよ  
食事は、元気、健康、やさしさの始まり。給食や朝  
ごはんも、食事にはもちろん、かくでいいからう  
なん。自食しないばかりにインナードラム入り、豆  
食やワッフル、グラウンド等で効率的ですよ。

● バランスよく食べよ  
主食は、米、副食は、野菜の上にもかん。主食は、辛氣つまんない、主  
食は、かくでいいのうど、少しでも食事をとること。  
しかし、空腹感がひどい、口渴で、のどの音で、舌を一本  
ルギーする、からにも限界があるといいます。

● 旬のものを食べるよ  
季節の野菜を心地よい状態で口に。旬のもの、おい  
しく、空腹感がひどい、口渴で、のどの音で、舌を一本  
ルギーする、からにも限界があるといいます。

● 新鮮で安全なものを食べるよ  
取扱いをよくするのうど、少しでも食事をとること。  
取扱いをよくするのうど、少しでも食事をとること。  
取扱いをよくするのうど、少しでも食事をとること。

● 猿上の料理や食文化の大切にするぜよ  
長い目を見て、受け継がれてきた先人の知恵のうどした利益を忘  
れたらいいから、命運といふ、先祖から得た土育育てを書いて、大  
切に守っていく。猿のたまごの山田屋、白井屋などは  
萬葉の詩や、白井市などの伝統、食文化を知り取ります。

● みんなで一緒に食べるとうまいぜよ  
家族の時間も心地よい状態で口に。少しでも食事が  
出る、好き嫌いしたんだ、ちょっとしたのち  
えい、みんなが喜ぶがうらうら、もじらい、作って  
片付ける、もっとうまい。

● 規則正しい生活をするよ  
【毎日】寝起き、朝ごはんは、すこといいね、食事だけでは  
なく、運動も寝起き作業の代わりの本業や、適度な運動せん  
といふん、一日を大きく生きさせよ。

● 作成：高知市立県西中学校 桑井

# 龍馬の食育への八策

### 4. 研究と実践活動の歩み

道徳教育においては、「特別な教科道徳」が誕生することは、文部科学省の方針で決定されている。その一步先の実践として、地域教材の冊子 A4判 32頁を作成した。

#### 目次

- 1、入学時の目標や夢
- 2、龍馬の道徳への八策
- 3、龍馬の地震への八策
- 4、龍馬の交通安全への八策
- 5、龍馬の食育への八策
- 6、龍馬の観光への八策
- 7、龍馬と人権
- 8、龍馬の志
- 9、龍馬の志を受け継いで
- 10、夢・希望
- 11、卒業時の目標や夢

#### 『龍馬と人権』

宮 英司先生 執筆

坂本龍馬は三十三年の生涯（当時は数え年、満三十二歳で没）の最後の五年で輝いた人でした。一八六二年に脱藩して、一八六七年に暗殺されるまでの五年間で、一八六六年の薩長同盟の締結に至るまでの尽力と、一八六七年の大政奉還の側面的支援という二つの大仕事をなしとげた功績は日本の歴史上に燐然と輝いています。

子どもの時の龍馬については、格別の記録もありません。ただ、雨の降る日に傘も差さずに鏡川へ水練に向かう姿を見て、顔見知りの大人が「雨が降っているのに水練へ行くのか」と問うたのに対し、「水練でどうせ濡れるから傘がなくても同じこと」

### 3. 道徳教育の実践

道徳教育においては、特別な教科として『道徳』が平成31年度より完全実施される。

その進取の実践として、27年度は、地域教材の冊子（道徳への八策等）を作成し、3学期の参観日には「道徳・人権自主発表会」を行った。

今年度（高知県道徳指定校事業2年間の1年目）は、1月14日（土）に道徳教育研究発表会（中間発表）を行うことができた。

と答えたので、大人の方も言葉が返せなかつたという有名な話が残されています。

また、小高坂にあった楠山庄助塾に通い始めて間もないころ、上士の子どもと喧嘩になり、相手が刀を抜いて斬りかかってきた時、龍馬が咄嗟（とっさ）に硯（すずり）のふたで止めて防いだので、事なきを得たという事件が発生します。相手の子どもは退塾処分になったようですが、龍馬の父は、龍馬にも非があったとして、すぐに退塾を申し出ています。（これ以降の龍馬は、姉乙女や父八平が学問の師匠であったと思われます。）

当時の土佐藩は、上士と下士（郷士）の格差が激しく、郷士は下駄をはくのはダメ、足袋をはくのもダメとされ、おまけに上士の判断で「斬捨て御免」というようなことが許されていました。龍馬もこうした不合理に気づき、「何とかしたい」と思うようになったはずです。

井口村刃傷事件は、永福寺の門前で発生した事件です。上士と郷士のいさかいが原因で双方から三人の死者が出ました。その後は両者の激突も予想されましたが、郷士二人が切腹することで決着をはかったといわれています。どちらかといえば上士の横暴が通った幕引きで郷士側の不満は大きく、半年後の土佐勤王党の結成につながったといわれています。

二十五歳の龍馬も郷士側に駆けつけて一触即発の危機の真っただ中にいたと思われますが双方が都合のいい主張を繰り広げ、正確な事実は確定していません。

龍馬はとてもやさしい人でした。十二歳の時に母を亡くしたのに続いて、次々と九人の家族（母、おい、祖母、兄嫁、父、兄嫁、姉、姉、継母）を亡くしています。こ

うした家族との悲しい別れを数多く体験した分、よけい心やさしい、思いやりのある人間に育ったのでした。

龍馬の奥さん・お龍さんが、龍馬の死後に後日談として興味深い話を残しています。一つは、龍馬が役者を一人迎えた話です。その時、後藤象二郎が「君の家来には役者もいるのか」と笑った時、龍馬が「役者もいるが腸（はらわた）だけは綺麗だぞ」と言ったそうです。もう一つは、支那人（中国人）の子を迎えた時、支那から日本まではるばる来たのだからと、春木和助という名前をつけてやったとのことです。この二つの話は、龍馬の開けっ広げで、心の広い様子を象徴しています。

この他にも、越前からきた海援隊への入隊希望者を前にして、土佐から脱藩してきたおいたちが土佐の話ばかりをペチャクチャとするのを「自分勝手な話ばかりするとはけしからん。」と散々にしかった話も残されています。「気配りの龍馬」という一面を物語るエピソードだと思います。

長崎につくった亀山社中では、貿易会社のような仕事をしたり、薩摩と長州の間を取り持つたりしました。その亀山社中の給料は全員が三両二分であったとの記録が残っています。代表者もヒラも同じ給料であったというところに龍馬の公平な感覚を見る思いがします。（三両二分＝三十五万～四十三万円）

また、龍馬が「出逢いの達人」といわれているのも、一人ひとりとの出会いを大切にしていた証拠ではないかと思います。

勝海舟、西郷隆盛、小松帯刀、三岡八郎、桂小五郎、横井小楠、岩崎弥太郎、後藤象二郎、武市半平太、中岡慎太郎・・・。

次々と出会った人たちの考え方を身につ

## 教育雑感

学校教育のビジョンを立てるときに、学校の伝統の遺産や特色を引き継いでいくことが大切である。私は、高知市立城西中学校に昨年度赴任した。城西中学校は、校名の示す通り、高知城の西に位置し、幕末から明治維新に活躍した人物の生誕地が多くあり、さらには校区の周辺等で活躍した場所がある。

土佐の先人は、幕末から昭和初期に名を残した先人が多くいる。

昨年度から、人物の先見性を学び、現在を生き抜く「生きる力」を身につけることを研究の目的としている。特

に、坂本龍馬の生誕地があり、龍馬の活躍の学习は様々な方法で行っている。

①防災学習とのリンク・生徒の『子一ム龍馬』を編成して、防災ボスター「龍馬の地震への八策」を作成した。

龍馬を通して、地震や津波への防災を学ぶこ

の知人も多くなつてしまと推測する。

そして、龍馬の気持

ちを代弁する形で「南海トラフ地震」への備えを記述した。さらに、今年度は、隣に位置する高知県立高等学校の指

導を受け、点字版の「龍馬の地震への八策」を作成中である。

会議員さんなどに試食をしてもらつた。幕末西中を会場に開催され

る。まちづくり・観光

等の文化【食事等】を

ちを代弁することによって、全

ての食材は「地産地消」

教育へのアプローチと

考へている。

⑤道徳教育とのリンク

であり、食育教育へのアプローチとなつた。

③NIE学習とのリ

ンク・中学校で学んだ

「道徳」がクローズア

ップされてきている。

龍馬の生き方や考え

方、行動力を本校の

「地域教材」として、

さらに、平成の龍馬の

活躍として、校区の人

材を登場させた道徳教

材の原案を本年度に作

成する予定である。

④郷土学習とのリンク

で4回新聞を発行し

た。今年度も引き続い

て、多く新聞を発行す

る予定である。

④郷土学習とのリンク

と推測した食事の再

現」を実施した。レシ

ク・龍馬生誕180年

記念事業の一つとし

と誇りを持つ教育が

重要であると考へる。

生まれた郷士に「自信

と誇り」を持つ教育が

重要であると考へる。

（宮田龍・高知市立城

## 龍馬の夢と志は生徒と同じ

し、幕末から明治維新

に活躍した人物の生誕

地が多くあり、さらには

たところとした。嘉永

7年（1854年）6

月に江戸から土佐に帰

郷していた龍馬が、同

年11月発生の嘉永安

政・南海地震を体験し

た。地震に関する記述

生徒が「龍馬が食べた

る予定である。

④郷土学習とのリンク

と推測した食事の再

現」を実施した。レシ

ク・龍馬生誕180年

記念事業の一つとし

と誇り」を持つ教育が

重要であると考へる。

生まれた郷士に「自信

と誇り」を持つ教育が

重要であると考へる。

（宮田龍・高知市立城

西中学校長）

西中学校長)

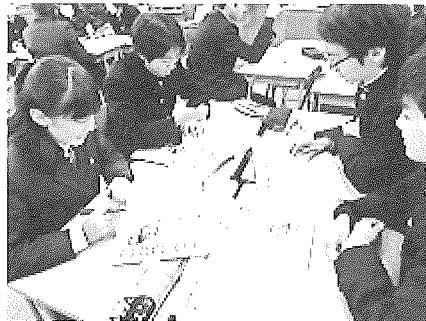
け、また、それぞれの優れたところを見抜いていくことができたのも、龍馬の相手を素直に受け入れ、尊重しようとした姿勢の現れではないでしょうか。

龍馬は、千葉定吉道場で北辰一刀流長刀兵法の免許皆伝を受けた剣の腕前でしたが、生涯で一度も人を斬り殺してはいません。できれば、人を傷つけたりしたくないとい

う龍馬のやさしさが感じられます。

「世の人は われを なにとも ゆはば  
いへ わがなすことは われのみぞしる」

目標に向かう龍馬を象徴した強い決意に  
みなぎった歌にも見えますが、実は一人ひ  
とりを大切にしようとした龍馬の生き方が  
隠されているようにも思えます。



### 中学校第1学年 道徳学習指導案

#### (1) 主題名

相手を認め尊重する心・寛容の心 【相互理解・寛容】 中学校 B (11)

#### (2) ねらいと教材

##### ① ねらい

坂本龍馬の様々な話を聞くことで、彼の生き方や態度を通して、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく態度を育てる。

##### ② 教材名

「龍馬と人権」（出典：龍馬の夢と志は城西中生徒の夢と志 [城西中学校道徳資料]）

#### (3) 主題設定の理由

##### ① ねらいや指導内容についての教師の捉え方

人には、いろいろなものの見方や考え方があることを理解することが大切である。それぞれの個性や立場を尊重することや、寛容の心をもって接することで人間としての成長が見られる。謙虚に他に学ぶことは自己伸長につながる。坂本龍馬のように、自分自身や他者を受け入れる広い心をもっていきたいと考える。

##### ② 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い（生徒観）

本学級の生徒は、他者を思いやる心をもった生徒や、協力し合うことができる生徒が多い。しかし、自分の意見や考え方方に自信がなく、他者の意見を気にしてしまい、自分の言葉に表したり行動に移したりする力がまだまだついていないといえる。

坂本龍馬は、周りの人の意見を大事にしながら、自分の考え方をしっかりともち、行動に移せた人物である。そこで、坂本龍馬の考え方や生き方に触れることで、現状の私たちに必要な、相手を理解し受け入れる力を身につけさせたい。個々の意見や考え方を受け入れていくことで自己伸長につなげていき、それが生活する学級や社会に生かしていくたらと考える。

##### ③ 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、坂本龍馬の考え方や他者を受け入れる広い心が読み取れる教材である。

本校区には坂本龍馬の生誕地があることもあり、龍馬は生徒にとって身近な存在である。地域の人材を活用することで、生徒たちの考え方や生き方につながるようにしていきたい。そして互いに意見を交流し受け入れることで、相手を理解する心や寛容の心を育てたい。

#### (4) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 坂本龍馬の知っていることを確認する	○坂本龍馬はどんな性格だったと思いますか？	
展開	2 教材「龍馬と人権」を読んで、話し合う。	○龍馬の話を聞いてどう感じましたか。 • 不合理に立ち向かっていた。 • いろいろな人を受け入れているところがすごいと思った。 • 周りをよく見ていると思った。 • 優しい人 • 広い心の持ち主だと思った。 • 出逢いを大切にした人  ○「一人ひとりを大切にしようとした龍馬の生き方」とはどういうことだろう。 • 周りを受け入れていた。 • 個々の意見を大事にした。 • 相手を理解し、相手にあわせることができた。 • 自分の意見を持っているが、相手の意見も認めた。  ○相手を理解し、意見を受け入れることができている場面を考えてみよう。 • 各行事でのテーマ決め • 日々の授業での友達の意見	• 龍馬の性格を確認。 • 相互理解、寛容の心を捉えさせる。  • ワークシートに記入。 意見交流。 個人→ 班→ 全体
終末	3 今の自分にできることを考える。		• 学級生活、行事での活動など。
	4 学習を振り返る。	○今日の学習を振り返ってみよう。	• 感想を記入
<b>【評価】</b> 「相互理解の心や、寛容の心」とはどういうことかを考え、理解を深める。 (観察・発言・ワークシート)			

# 龍馬の道徳への八策

◎「世に生を得るは事を成すにあり」

○「人の世に道は一つということはない。  
道は百も千も万もある。」

- 二 節 人にやさしく!  
……【生涯、人を切らず】  
自分に厳しく、他人には優しくふるまうことが大切ぜよ。
- 三 節 人のはなしをよく聞く!  
……【出会いの達人】  
人の意見をしっかり聞き、あいてのよさをみつけ友だちになることが大切ぜよ。
- 四 節 自分の得意なことをみつけ、  
最後までがんばる!  
……【北辰一刀流】  
人はみな何か素晴らしいものをもっている。  
自分自身を磨くために、あきらめることなく頑張ることぜよ。
- 五 節 相手のよいところをみつけ、  
学ぶことが大切!  
……【そしゃく名人】  
「知は力なり」適切で正しい判断するために学ぶことが大切ぜよ。
- 六 節 ルールを大切にする。  
……【交渉力 相手を説得・薩長同盟】  
きまりや法律を大切にする。それを武器として、堂々と対処することが大切ぜよ!
- 七 節 自分が正しいと思うことに挑戦する。  
……【目的のために突進・脱藩・大政奉還】  
常に先を読み、決断し、勇気を持って行動すること。
- 八 節 家族へのおもいやりを大事にする。  
……【家族や友人への手紙・筆まめ】  
自分を育んでくれた、家族に感謝しおもいやりを持つことが人としての原点ぜよ。
- 九 節 友人を大切にする。  
……【つながり】  
友だちを大切にすることが自分を大切にすることぜよ。  
自分を大切にすれば、「いじめ」はおこらない。

龍馬が生きた時代は、江戸時代後半(封建社会)であり、新しい時代への幕開けに大きく関わったことが龍馬の先見である。

道徳においても、「龍馬の夢と志は城西中生徒の夢と志」とテーマを掲げ、龍馬の成し遂げた偉業に学び、今日を正しく「生きる力」を高めるため「道徳への八策」を作成する。

作成:高知市立城西中学校職員 協力:宮英司

**【学び方の例】** 八策を読み、理解したことを発表し合う。

- 今、あなたができることは何ですか。三つ選んで具体的にどう行動するか班で話し合いましょう。 ○ 「人にやさしく」について考えて下さい。「やさしさ」とはどういうことだと思いますか。 ○ 八策だけでなく、九策も考えて下さい。



### 《生徒が作成した新聞記事の内容》

全クラスを対象に道徳自主公開授業研究会が行われた。学校にはたくさんの保護者が訪れた。今回の授業で使った道徳資料の冊子は城西中オリジナルのものだ。具体的には『龍馬の地震への八策』という地震に対しての備えや心構えなどを題材とした八策がある。そのなかで第1学年は『龍馬の道徳への八策』という龍馬の名言や人柄を題材に作られたものを、第2学年は『龍馬の交通安全八策』という私達が日頃利用している自転車中心の八策を題材にして作られたもので授業を行った。『龍馬の交通安全八策』の例として【二人乗りはいかんき！】らがある。両学年ともそれぞれの八策を見直し、考えを深めることで意識を高めた。そして授業の最後にグループで『龍馬の八策シリーズ』にさらに『九策目』を作成した。

九策目には第1学年では【たまには息抜きをしよう】、第2学年では【点検を忘れたらいかんき】等グループ活動では様々な意見が飛び交い、一つに絞るのが難しいほどに意欲的に授業に参加できていた。

『龍馬の交通安全八策』に関しては本校卒業生が作成したものということもあり、大変理解しやすく、親しみも湧いた。なお、この道徳資料は、そのほかに『龍馬の食育への八策』『龍馬の観光への八策』などが共に掲載されている。本校卒業生で初代チーム龍馬のメンバーからコメントを頂いた。「今回、素晴らしい道徳資料ができているということを知り、本当に驚いた。私達が卒業しても、このように形として残してもらえ、高知の皆さんに知れ渡っていくことを誇らしく思う。今は多くの「八策」の一つとなる「地震八策」が私たちの原点である。この一枚ができるまでにアイデアを出し合い、放課後、チームで集まり頑張っていたのを思い出す。チームでの活動を通して、沢山の人と繋がり色々な経験をさせてもらった。龍馬を通じて道徳を学べる素晴らしい資料である。これから先も、次へ次へとチームを繋げ、城西から高知を広め活性化していく下さい。」

私達はチーム龍馬を引き継いだばかりであるが、先輩からの激励の言葉に応えられるよう活動を続けていきたい。

（チーム龍馬 A女子）

## 5. おわりに

特色ある学校づくりに向けて、様々な分野で、「龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志」をテーマに挙げて、研究と実践を行った。特に、生徒に各分野の八策を作成させ、校内に掲示して学習を深めることにより、テーマを深めた教育実践が進んでいる。さらに、「城西龍馬新聞」が、生徒自身の手によって適時発行されることにより、学校の発信力が増し、保護者、地域住民が城西中学校の取組に対して関心を持ってくれている。

(校長：宮田 龍)

\* [現：トルコ・イスタンブル日本人学校長]

### 《参考資料：自作資料作成上の留意点》

校内研修で兵庫教育大学の淀澤勝治先生が講演した資料の一部を要約し掲載する。

#### (1) ねらいの明確化を行うこと。

道徳資料は「道徳の時間」に活用する読み物で、道徳学習を円滑かつ深く学んでいくように教材化したものである。道徳学習ではねらいがある。そのねらいとする道徳的価値があやふやでは子どもたちは何について考えていけばよいか分からなくなる。資料に描かれている道徳的価値が何であるか明確になっていなければならない。

複数の価値について書かれているものも散見するが、中心として考えさせたい価値を明確に定めておくと、授業がぶれない。

#### (2) 簡単・明瞭・簡潔な文書であること。

#### (3) 主人公の設定を行うこと。

主人公は子どもに設定し、その子どもが何かのきっかけでその偉人の生き方に触れ、心が変容していく資料として作成する。

#### (4) 発達段階や学年段階に対応させること。

#### (5) 整合性が取れていること。

作成する際に陥りやすいのが、文章の内容に思い込みが激しく、自分では当然のことにもかかわらず、他者が読んだときに「なぜ？」「どうして？」と思われてしまうこと。それは、丁寧に読んでいくと文章に整合性が取れていないことが原因である。読み直し、文章のつながりや話の展開にずれがないかどうか精査する必要がある。

(6) 一番大切なことは書かない。

道徳の時間に最も考えさせたいのは、ねらいとする道徳的価値に対する見方・考え方である。この前提に立てば、一番大切なこと（ねらいとする道徳的価値）は詳しく書かれていないほうが良いと考える。書いてないが故に子ども達は一人ひとり自分の考えを述べることができるからである。

また、自分の考えを発言できるということは、他者の考えに耳を傾けたくなるということにもつながる。このことは、道徳の時間における話し合い活動の促進にもつながると考える。新しい学習指導要領でも謳われている「多面的・多角的に」「考え、議論する」道徳への橋渡しが可能となる。

#### (7) 会話文の効果的な挿入をする。

会話文にすることで、登場人物の背景や人柄、おかれている葛藤状況等がスムーズに子ども達の頭に入ってくるし、臨場感のある場面の想像が可能になると思われる。そして、なによりも説明文よりも格段に短い文章で状況説明が可能となる。

#### (8) キーワードとなる言葉を入れる。

道徳の資料において、最も重要なポイントの一つは、主人公が道徳的に見て変容する場面や葛藤状況の場面である。その場面で子ども達の思考を促すには、そこでの副詞、副詞句の効果的な挿入であろう。動詞を修飾するこれらの言葉から、主人公の気持ちを推測しやすい効果が期待できる。気持ちばかりを聞く授業にはならなくなる。

#### (9) 著作権への配慮が必要であること。